

## 「季節の花 300」

<http://www.hana300.com>より

(写真・説明文引用)



犬蓼(いぬたで)

花言葉…あなたのために役立ちたい

辛味がなく食べられない蓼、の意味。「犬」がつくものには食用にならない、の意味をもつものが多い。犬胡麻(いぬごま)、犬芥子(いぬがらし)、犬薺(いぬなずな)、犬稗(いぬひえ)、犬蕨(いぬわらび)、など。ことわざ「蓼食う虫も好きずき」別名「赤まんま」(赤飯)。まさにそのとおり。つぶつぶの花です。

# 花のお便り

2012.8 No.74

E-mail : [info@miyazaki-p.co.jp](mailto:info@miyazaki-p.co.jp)

<http://www.miyazaki-p.co.jp/>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山5-33-2  
TEL. 03-5384-1331・FAX. 03-3305-2528

「あの時までは幸せな生活だったのに、なぜ私たちがこんな目に……」避難している福島県民の心境だ。先日ミュージシャンの坂本龍一さんが呼びかけて開催された「脱原発」集会音楽フェスで「山崎まさよし」さんが言っていました。「一人ひとりには小さいけれど、ちょっとずつ変わっていけばいいと思う」国会前のデモの声を「音」と言った人に聞かせたい。



## 印刷色校正会社の胆管がんについて

大阪の印刷会社で6名が発症し、5名が胆管がんで死亡するというショッキングな事件が起こった。その後、宮城・石川・東京・静岡でも発症者や死者が発表された。労災認定の時効が経過しているケースが多いというが、残された遺族を考慮した、特別措置を期待したい。

マスコミは印刷会社とあるが、色校正専門の会社は一般的な印刷会社とは業務内容が異なり、区別する方が賢明だ。色校正専門会社の業務は、一般印刷会社が多く部の部数を印刷する、前段階の試し刷りの色校正となる。色を替える度にインキの洗浄が必要となるアナログな印刷方式といえる。

色校正専門会社はインキの洗浄を一日100回以上行うが、通常印刷会社のインキ洗浄は1日数回、4色(カラー印刷)機は一日一回という事もある。さらに最近は、色校正も、デジタルとなり、印刷機での色校正はなくなりつつある。ジクロロメタンが入った溶剤は当社でも使用しているので、従業員の命に関わる事として、今後も慎重に対処していきたいと考えている。



## 宣伝を考える(4) チラシ作成編 その3 宣伝物に付加価値をつける。

近頃の折込チラシを見ると、来店のお客様へのサービスやプレゼントが満載です。産地直送の野菜・お米のプレゼント、花や種のプレゼント、景品が当たる抽選会、子どもが喜ぶキャラクターのプレゼントなど多彩です。昔からの〇〇%割引・粗品進呈・スタンプカード・ドリンク無料券などは依然根強く存在しています。サンプル無料引換券や初回サンプル品無料という方法も、資金力があれば、赤字覚悟で先を見越した営業としては有効といえます。

携帯電話で読むQRコードも、チラシのみならず、パンフレット・カードなどにも印刷されています。ホームページや会社、商店を案内するだけでなく、イベントの情報を告知し、携帯で申込みフォームに入力すれば、申込が完了するようになっていきます。最近の若者にとって携帯は、あらゆる情報の収集や、生活にとって必需品となっているので、QRコードは有効な宣伝手段と言えます。

物品をサービスとして扱う場合に気をつけなければいけないのは、来店したお客様によっては、販売を目的とした商品でなく、販売促進の為にサービス品が目的だったと言うこともあります。

大切な事は、お客様に会社や商店・商品そのものの魅力や内容を納得してもらうことに、最大の力を傾ければ多くの人が購買予備客に変化していくでしょう。

### 気まぐれエッセー

### 尺イワナの怪情報

7月に新潟県のとある地域にイワナ釣りに行った時のことだ。その日は、目的の沢が昨日の雨で大増水となり、とても釣りができる状態ではない為いくつかの沢を見て、最後の沢に到着したのが3時30分。久し振りにイワナの感触を楽しんだところで時間切れ、海沿いの民宿をさがし5時過ぎ宿に辿り着く。ひと風呂浴びのんびりしていると、民宿のおばちゃんがきて「毎年二人連できて“こんなの”を沢山釣っていく」と来た。その「こんなの」という仕草が3人の目には30cm程に見えた。翌朝、

目的の沢に行くと、私の中の妄想は一気に消し飛んだ。田園の中の用水路を広くしたような沢だ。他の二人はどうも真剣に思い込んでいるらしいが、いざ釣りを始めると、釣れるイワナは20cmに届かない。最初は意気込んでいた二人もいつの間にか意気消沈。釣人の話しもそうだが、釣人でない人の話しはもっと当てにならない。この話しは、「こんなの」と広げた左右の手の間隔の大きさが、尺イワナ程に見えてしまった3人の釣人の余りにも卑しい話しである。